

EMECS

NEWSLETTER

No. 23

EMECS2003(第6回世界閉鎖性海域環境保全会議)

2003年11月18日(火)~21日(金)

タイ王国 バンコク市

EMECS2003(第6回世界閉鎖性海域環境保全会議)が2003年11月18日から21日までの4日間、タイ王国バンコク市において、「自然と人々の持続可能で友好的な共生を図るための包括的な責任ある沿岸域管理」をテーマに、23カ国から600人を超える参加者を迎えて開催された。最終日には「バンコク宣言」を採択し、次回会議は2006年にフランス・カーン市で開催することが表明された。



開会式

タイ王国国歌が流れる厳粛な雰囲気の中、タイ王国チュラポーン・ワライラック王女代理ヴィチット・スリサアーン博士をお迎えして開会式が始まった。まず、EMECS2003国際組織委員会



EMECS2003国際組織委員会
プロドブラソップ・スラサワディー委員長

プロドブラソップ・スラサワディー委員長(タイ王国天然資源環境省長官)から、「第6回エメックス会議がタイ湾・アンダマン海という2つの閉鎖性海域のあるタイで開催されることを歓迎する。タイにおいても、海洋及び沿岸資源は重要であり、環境問題は喫緊の課題であり、解決のために地域でのコミュニケーションに加えて、科学者・政府・民間部門が互いに意見交換していくことが大切である。この会議において、参加者が沿岸域の環境保護という共通目標のため、知識や経験について意

見交換が行われ、沿岸資源の有効利用が促進されることを希望する」旨の挨拶があった。次に、(財)国際エメックスセンター 井戸敏三理事長(兵庫県知事)から、EMECS2003開催及び阪神・淡路大震災の際の支援について、タイ王国に対する感謝の意が表明され、続いて第1回から第5回までのエメックス会議の開催概要についての説明、第6回会議テーマとして、沿岸域は人間と自然が共存する場であり、人々が責任ある方法で沿岸域を管理していくことが重要であること、また、神戸・六甲山の環境問題に対する取組についての経験が披露された。



(財)国際エメックスセンター
井戸敏三 理事長

見交換が行われ、沿岸資源の有効利用が促進されることを希望する」旨の挨拶があった。

次に、(財)国際エメックスセンター 井戸敏三理事長(兵庫県知事)から、EMECS2003開

催及び阪神・淡路大震災の際の支援について、タイ王国に対する感謝の意が表明され、続いて第1回から第5回までのエメックス会議の開催概要についての説明、第6回会議テーマとして、沿岸域は人間と自然が共存する場であり、人々が責任ある方法で沿岸域を管理していくことが重要であること、また、神戸・六甲山の環境問題に対する取組についての経験が披露された。



ヴィチット・スリサアーン博士

その後、タイ王国チュラポーン王女代理のヴィチット・スリサアーン博士から、「タイでは開発が続いており、天然資源の枯渇が懸念される。特にマングローブ林は小エビ池

への転換等により著しく減少した。マングローブ林の破壊は、沿岸域のみならず、内陸部、沖合にも影響を及ぼす。タイ王室ではマングローブ林の実状を憂慮しており、王室自ら回復・修復のためのプログラムに参加することで、国民の意識変革を促進している。沿岸環境の保護、管理を成功させるためには、地域コミュニ

目次

EMECS2003(第6回世界閉鎖性海域環境保全会議)..... 1~4
バンコク宣言..... 5~6

青少年環境教育交流..... 7~8

ティール・研究者・政府・教育者等の連携と協力が図られなければならない。また、研究者の連携により、生態系の構成要素すべての調査が重要である。EMECS2003が有意義な会議になることを期待する」とのメッセージの後、EMECS2003の開会が宣言された。

基調講演

開会式に続き、3人の科学者による基調講演が行われた。要旨は次のとおり。

○「東アジアにおける持続可能な沿岸域開発への挑戦」



東アジア海域環境保全パートナーシップ (PEMSEA)
GEF/UNDP/IMO地域計画局
チュア・ティアエーン 局長

「持続可能な開発」という概念は環境と人間活動の相互作用における社会経済上の利益であるとして広く評価されているが、それを実践していくには様々な障害がある。陸地に比べ海洋及

び沿岸域での環境管理政策は遅れている。持続可能な開発の実践には経済活動を管理し、自然システムが機能不全に陥らないよう人間の介入を規制していくことが必要である。発展途上国において、生息地破壊、川や海岸の水汚染など環境悪化が急速に進んでいる。貧困、経済のグローバル化、地域経済圏の発展などが原因として考えられるが、問題解決には社会経済・文化・政治・生態学など複数の部門が連携してアプローチしていかなければならない。

○「海洋環境への脅威とEMECS」



(財)国際エメックスセンター
茅陽一 会長
(東京大学名誉教授)

海洋環境、特に閉鎖性海域の環境悪化は、先進国、発展途上国双方にとって、重大な問題であり、世界中が深刻な状況に陥っているという共通認識のもと、閉鎖性海域の環境保護を促進するため、1990年

にエメックス会議がスタートした。閉鎖性海域周辺は人口密度の最も高い地域であり、様々な人間活動の影響を受けていることから、より環境保護の努力をしなければならない。また、地球温暖化は様々な面で海洋環境にも影響をもたらしており、私たちは見過ごすことなく、十分注意していかなければならない。

○「タイにおける珊瑚礁の保全と研究」



海洋生物学者
ハンサ・チャンサン 博士

珊瑚礁保全は、珊瑚礁資源の悪化とともに用途も多様化していることから重要度の高い問題となった。珊瑚礁を修復するためには、修復の研究とともに珊瑚礁の活動、多様性、長期にわた

る珊瑚礁の状態変化そして気候変化が及ぼす影響について調査しなければならない。また、珊瑚礁管理を行うには、コミュニティーの政治的・文化的背景に関する理解が必要となるので、保全計画には地域コミュニティーが参加すべきである。

特別セッション

EMECS2003では、4つの特別セッションが設けられた。

○タイ湾セッション



基調講演に続いて開催された「タイ湾セッション」では、チュア・ティアエーン 東アジア海域環境保全パートナーシップ (PEMSEA) GEF/UNDP/IMO地域計画

局長、タウィースックディ・ピヤカンチャナー チュラロンコン大学教授によるオープニングメッセージの後、タイ湾の環境保全事例が報告され、引き続き、チェサピーク湾、瀬戸内海、マニラ湾、渤海の事例紹介などの報告が行われた。

○アジア太平洋フォーラム



前回会議のEMECS2001で開催された「アジアフォーラム」を発展させていくために開催された「アジア太平洋フォーラム」では、山村尊房 APNセンター

長、ピアムサック・メナサウエイド チュラロンコン大学科学部長・教授の開会挨拶に続き、アジア太平洋地域の沿岸問題に取り組む科学的挑戦、沿岸域管理の必要性和要望、太平洋の島々沿岸の正しい管理と誤った管理、APN沿岸研究とアジア太平洋地域における沿岸統合管理の新しい方向性のプレゼンテーションが行われた。

フォーラムでは、三村信男 茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授を議長に、パネリストと利害関係者、関心を持っている人々等幅広い参加者からなる聴衆の間で将来の研究方向に関する活発な議論が行われた。

○環境教育セッション「青少年環境教育交流」



ジャンポール・デュクロトワ ハル大学名誉教授及びウェイン・ベル ワシントン大学環境社会研究所所長・教授を議長に、次世代を担う青少年及び環境教育者が環境保全、

環境教育に関する取組の活動報告を行い、質疑応答・意見交換を通じて、水を中心とした環境保全についてグローバルな視点から問題意識を育むことを目的に2日間にわたって開催された。初日は高校生・中学生、環境教育者による活動報告、質疑応答及び意見交換が、2日目はUNESCO Bangkok、現地学校への訪問が行われた。

青少年を加えた環境教育セッションはエメックス会議初の試みであり、高い評価を受けるとともに継続開催が約束された。

○NGOフォーラム



タヴィヴォンセ・スリプリチュラロンコン大学助教授を議長として開催された「NGOフォーラム」では、インド・ロシア・日本3ヶ国4グループの報告が

あった。報告後の討論では、政府とNGOの役割やNGOの支援、資金調達の方法等についてそれぞれの活動における事例や経験等について情報交換が、また、NGOが地域で行う環境教育の重要性について意見交換が行われた。

技術セッション

技術セッションでは、16のセッションが行われた。各セッションのテーマ及び議長は次のとおり。

モニタリングシステムとモデリング

- ・柳哲雄（九州大学）
- ・アップソンスター・シリポン（タイ・チュラロンコン大学）
- 海洋生息地の評価
- ・ベン・ヤンソン（スウェーデン・ストックホルム大学）
- ・スチャダー・チャワニット（タイ・チュラロンコン大学）
- 水質の評価
- ・三村信男（茨城大学）
- ・ポンスック・ションプラシット（タイ天然資源環境省公害規制部）

沿岸工学

- ・エルダール・オーザン（トルコ・中東工科大学）
- 陸域活動による沿岸海洋環境への影響
- ・ジェーン・ニシダ（PADCO, Inc）
- ・スピチャイ・タンチャイトロン（タイ・チュラロンコン大学）

未解決及び新たな環境問題

- ・川井浩史（神戸大学）
- ・センチャン・リンジラカン（タイ・チュラロンコン大学）
- モニタリングと赤潮予測
- ・三村信男（茨城大学）
- ・タイタウォーン・ルートウイッタヤーブラシット（タイ・チュラロンコン大学）

新技術手法

- ・楠井隆史（富山県立大学短期大学部）
- ・ソムキヤット・ピヤティラティティウオラクン（タイ・チュラロンコン大学）

沿岸生態系管理と環境保護

- ・松田治（広島大学）
- ・チャルーン・ニティタムヨン（タイ・チュラロンコン大学）
- 環境の保全と修復

- ・イヴィツァ・トゥルンピッチ（国連環境計画地中海行動計画優先行動計画地域活動センター）

- ・チャードサック・ヴィラパット（国際海洋研究所タイ支部）
- 沿岸政策と社会的な措置

- ・デヴィッド・キャロル（米ボルチモア郡環境保護資源保全部）

- ・バックトラウィモン・ピヤムルームラート（タイ・チュラロンコン大学）

コミュニティ・活動による保全

- ・松田治（広島大学）
- ・ワライ・パニ（タイ・チュラロンコン大学）

法律上の要件と実践

- ・オラワン・シリラットピリヤー（タイ・チュラロンコン大学）

ツーリズム影響とエコツーリズム

- ・渡辺正孝（国立環境研究所）
- ・タヴィヴォンセ・スリプリ（タイ・チュラロンコン大学）
- 沿岸資源の成長、開発、利用

- ・高山進（三重大学）

- ・ソーラウィット・パオトンスック（タイ国立科学技術開発機構）

沿岸域での教育的側面

- ・ベン・ヤンソン（スウェーデン・ストックホルム大学）
- ・クンワン・ジャンタラショート（タイ・カセサート大学）

ポスターセッション

ポスターセッションには48点の展覧があった。松田治 広島大学名誉教授を委員長に、ベン・ヤンソン スtockホルム大学名誉教授、ソムキヤット・ピヤティラティティウオラクン チュラロンコン大学教授、デヴィッド・キャロル ボルチモア郡環境保護資源保全部長、イヴィツァ・トゥルンピッチ 国連環境計画地中海行動計画(UNEP/MAP)優先行動計画地域活動センター(PAP/RAC)所長の5名からなるポスター選考委員会の審査により、次の優秀作品2点に賞状と賞金が授与された。



1位 香川大学 小野哲氏、多田邦尚氏、一見和彦氏
「瀬戸内海沿岸海域における大型珪藻 *Coscinodiscus wailesii* の水質諸要因への影響」

2位 京都大学 タノムサク・ブンバクディー氏、藤原建紀氏
「雨季と乾季によって変わるバンパコン川河口域(タイ国)の栄養塩収支」



ハル大学
ジャンポール・デュクロトワ名誉教授



フランス・カン市

がある。会議テーマは「閉鎖性海域：私たちの共同責任」とする。私たちは将来の世代のために環境の持続可能な利用と保護の責任を共有している。重要な要素は地域参加による最も効果的な方法での学際的な統合管理と環境意識である。また、学生参加による交流をさらに発展させていきたい」との挨拶があった。

その後、プロドブラソップ・スラサワディー EMECS2003国際組織委員会委員長に代り、ピアムサック・メナサウエイド EMECS2003国際組織委員会運営部

会長から閉会挨拶として、会議開催にあたって協力をしていただいた人々、機関、支援していただいた企業等に対して感謝の言葉が述べられた。

最後に、(財)国際エメックスセンターを代表して熊本信夫 科学・政策委員会委員長(北海学園大学長)から「EMECS2003開催にご尽力していただいた方々、参加していただいた方々にお礼申し上げたい。今回で第6回を迎えるEMECS会議を振り返ってみると、将来世代を交えた環境教育、各種関連組織の相互協力



(財)国際エメックスセンター
科学・政策委員会 熊本信夫 委員長

による環境問題の統合、最新科学技術の利用、NGO団体の参加、法律的手段など数々の重要な問題が提起され、活発な議論・情報交換が行われてきた。この努力を次の世代に引き継いでいかなければならない」との挨拶があり4日間の会議は閉幕した。

閉会式



EMECS2003 国際組織委員会運営部会長
ピアムサック・メナサウエイド

場からいくつかの意見が出され、修正のうえ満場一致で宣言が採択された。

EMECS2003国際組織委員会運営部会長のピアムサック・メナサウエイド チュラロンコン大学科学部長・教授から参加者数等報告の後、ウェイン・ベル ワシントン大学環境社会研究所所長・教授から「バンコク宣言案」の提示があった。会

次に、ポスターセッションの優秀作品2点に、松田治 ポスター選考委員会委員長から賞状と賞金が授与された。

続いて、次回会議主催者を代表して、ジャンポール・デュクロトワ ハル大学



ポスターセッション優秀作品表彰

名譽教授から、「第7回EMECS会議は2006年にフランス・カン市において、(財)国際エメックスセンターと河口沿岸科学協会が共同で開催する。近くには、北海、英仏海峡という閉鎖性海域

全体日程表

	11月18日	11月19日	11月20日	11月21日
午前	参加登録 開会式 ・ 歓迎挨拶 ・ 記念挨拶 ・ 開会宣言 基調講演	特別セッション ・ 青少年環境教育交流	特別セッション ・ アジア太平洋フォーラム 技術セッション ・ モニタリングシステムとモデリング	特別セッション ・ 青少年環境教育交流 スタディーツアー
午後	特別セッション ・ タイ湾セッション	技術セッション ・ 環境の保全と修復	技術セッション ・ ツーリズム影響とエコツーリズム ・ 未解決及び新たな環境問題	技術セッション ・ 沿岸生態系管理と環境保護 ・ 水質の評価 ・ 沿岸域での教育的側面
夜	歓迎レセプション			閉会式 ・ ポスターセッション優秀作品表彰 ・ 次回エメックス会議開催地代表挨拶 ・ 閉会挨拶 ・ 謝辞
				さよならパーティー

バンコク宣言

第6回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2003）は、2003年11月18日から21日までタイ王国バンコク市において、23カ国から600人以上の参加者を得て開催された。

これまでのエメックス会議において、我々は閉鎖性海域そのものから、沿岸海域の生態系全体へ、さらに海辺から周辺の水域を経て、流域全体へと考えを広めてきた。バンコク会議では、この考えをさらに押し進め、沿岸域の生態系の重要な要素である地域社会や地域の人々を含め、そのテーマを「自然と人々の持続可能で友好的な共生を図るための包括的な責任ある沿岸域管理」とした。

我々の科学的調査・研究は、水質悪化の原因、ならびに世界の沿岸域生態系生息地の喪失を理解する上で大きな進歩をとげた。これらの調査・研究は、最も効果的な環境政策を可能とする基礎となるもので、その達成は、今後の進歩の上で必要不可欠なものである。

ところで、点源汚染の抑制ならびに規制を行う上で、技術の革新はこれまで大きな役割を果たしてきた。このような進歩は、下水処理施設の改善や工場排水規制、ならびに栄養塩の負荷低減をも含むものである。

さらに、資源管理・保全の努力は、我々の沿岸域での漁場の回復、ならびに持続可能な方法での管理を可能とした。これは賞賛に値する。

しかしながら全体から見て、このような成功例に対し、なお沿岸海域は十分に対応しているとはいえないという認識と懸念が広がりつつある。このような進歩は、これまで見落とされてきた非点源汚染からの汚染対策に対し、有効で画期的な進歩となることは明らかとなりつつある。技術革新によって前進を見てきた点源汚染とは異なり、非点源汚染の抑制は、人間の行動の変化に大きく依存することとなるであろう。このような行動の変化として以下のものが指摘される。

制御困難な洪水、地下への不浸透による流水、自然海岸の浸食のような環境破壊を最小限に抑制する沿岸の市・町・村の政策展開

共存活動の圏域（working landscapes）の保護。すなわち、これは生産の場としての農場、森林のような陸の圏域、ならびに同様に資源としての、漁業、商業、およびリクリエーションのような海の圏域を意味する。この圏域は歴史的背景を有する自然と人間の、今日まで維持されてきた共存を反映する。またこのことは、活力ある資源に基礎を置いた沿岸域の経済活動によって持続される、沿岸生態系の多様性を確実にするものである。

非効率なエネルギー消費をもたらす現在の交通手段、ならびに発電所などからの排出による大気汚染物質の低減

世界の閉鎖性海域の継続的な劣化と生物資源の減少は、世界の沿岸域コミュニティ、その経済ならびに伝統、文化及びそれら地域の特性を維持する自然の美しさの、将来に対する直接的な脅威となっている。このような特性の喪失は、その特色の喪失、所属する文化、快適さの喪失、並びに文化の多様性の価値の否定につながるものである。

これまではエメックス宣言において、我々は有効な沿岸域の統治にとって、市民、NGO、科学者、教育者、政策立案者の間の協働に対する認識の重要性を認めてきた。しかし、我々は、協働だけではもはや十分でないことを認識している。現在必要なのは積極的な参加なのである。特にこのような参加は、これまで以上に沿岸域のコミュニティ、ならびに市民を巻き込むことが必要であると考えられる。さらにより効果的な環境教育が、参加を促進する上で必要であると強く信じている。

我々、第6回エメックス会議の参加者は、自然と人々の持続可能で友好的な共生を図るための、包括的な責任ある沿岸域管理に以下の対策の指針を提示する。

1. 世界の沿岸域につながる流域での持続的環境管理、「共存活動の圏域」、ならびに、その場所への、人の帰属意識の間には何の矛盾も存在しない。水質と生活の質とは密接に結びついている。コミュニティには、地域の指導者のもとでその将来の経済的、文化的ならびに環境面での持続を可能とする市民の責任ある行動を推進する一層積極的役割が期待される。
2. 真に統合された沿岸域管理政策において、人は沿岸域生態系の構成要素として扱われる。このような政策は、沿岸コミュニティと「共存活動の圏域」の持続性と活性化を中心に据えた目標として、含まれなければならない。この目標達成のためにコミュニティの全面的な参加を促進するものでなければならない。
3. 学校の正規の授業ならびに青少年に対する特別なセンター、および成人に対するプログラムを通じて行われる環境教育は、極めて重要である。特に、最近の傾向である子ども達が、全ての五感を使って、自然環境を体験する機会がしだいに少なくなっているという現状や、限られた触れ合い、公害や地球規模の環境破壊への恐れに身を曝していくという傾向に対処していかなければならない。我々は、子ども達が自然との関わりによって違いが生じてくるような地域の例に基づいて、直接の自然を学ぶ機会が必要であると考え。我々は、子ども達が海や川、森や野原、自然の遺産や育った生態系場所について失われた好奇心を伝えていく必要があると考える。
4. 科学は、単なる新しい情報源として以上の意味を持つ。新しい知識や技術の開発は、人類に役立つものでなければ何の価値も持たない。科学は、その知識を教育者、コミュニティの指導者、政策立案者に対して単なる意見・見解ではなく、生きたデータに基づいて活用されなければならない。
5. 政府は、政策の推進者であり同時に規制者である。単なる規制だけでは、世界の沿岸域の問題を解決することはできない。研究を促進し、データの解析を進め、広く環境教育を進める多様な政策が実施されるべきである。政策の究極の目的は、沿岸域管理における中心的役割を積極的に果たす行為を通じて、地域の経済基盤、市民の帰属意識を自らの手で維持するよう努めることにある。国際機関は、流域とその他の生態系に基づくプログラムを達成する計画の間の協力を推進する上で、これまでの国家間の境界線を越えて活動しうる能力を有するので、一層有効な積極的役割を果たすことができる。
6. 作家、コラムニスト、詩人など文化的な価値の伝達者は、我々の閉鎖性海域の持続可能な発展を進める上で、重要な役割を果たしている。これらの人々は、維持可能な環境政策を採用し、機能させる上で、その地域の価値を伝えるため重要な役割を果たしていると考える。

この会議は、若い世代の人々とその指導者に、閉鎖性海域の環境管理に直接関わる機会を持ってもらう新しい試みとして、EMECS Schools and Students Partnership（青少年環境教育交流）を実施した。この宣言には今回の交流で示された経験と知恵が生かされている。我々の政策が次世代の人々の高い生活水準を保証するという、誤った認識を抱きがちである。しかし我々は、次代の子ども達の将来に責任を持っているという事実には注意を払うべきである。すなわち、次代の高い生活水準を永久に継続し得るような条件を提示したいと考える。彼らと我々の間は、相互に緊密な関係にあり、依存と協力が不可欠である。

EMECS2003参加者一同
2003年11月21日
(事務局仮訳)

青少年環境教育交流

「世界の沿岸域改善に若者と教師の参加を促進する取り組み」

ワシントン大学環境社会研究所所長 / 教授 (生物学・環境調査)

ウェイン・ベル



タイ、バンコクで開催されたEMECS2003は、米国とアジアの生徒と教師が「青少年環境教育交流」という画期的な先取的取り組みの参加者として一堂に会する初めての機会を与えてくれた。世界の閉鎖性海域のより良い環境保全に向けて情報を定期的に交換する国際会議であるエメックス会議にはこれまでも、政府職員、環境管理者、学者そして非政府組織代表などが参加してきた。1990年に神戸で開催されたEMECS'90を初回とする過去5回のエメックス会議では多くの口頭発表やポスターを通じて環境教育の重要性が訴えられてきた。これらの論文のいくつかを共著した小学校、中学校、高等学校の教師は、研究およびモニタリングプログラムで得たデータが科学や技術の重要な原理を教えるための実例として使えることを立証してきた。「青少年環境教育交流」は、小中高の教育者及び児童・生徒がエメックス会議に直接参加できる機会を提供するものである。その結果は環境政策の前進のために大いなる示唆を与えるものであった。

「青少年環境教育交流」はまさに時宜を得た先取的取り組みであると言える。EMECS'99の神戸・淡路宣言は、環境教育が効果的な沿岸域政策の鍵となることを明らかにした。このときのコミットメントがきっかけとなり、元米国メリーランド州環境省長官であるジェーン・ニシダ博士と同僚である国際エメックスセンター科学・政策委員会のメンバーが、あるコンセプトを提案し、それが「青少年環境教育交流」イニシアティブへとつながった。そのコンセプトとは、次のエメックス会議において特に世界各国の小中高の児童・生徒及び教師からの参加を目的とした特別フォーラムを作るといったものだった。エメックス会議参加の機会を利用して、ホスト国の学校から1校以上を選び、訪問するという計画も組み入れてはどうかという話になった。端的に言えば、EMECS2003は、各国の学校と児童・生徒が一緒になって世界の沿岸域環境政策について学習し、同時にその実行をも推進させるための触媒となるのではないかとのことだった。

バンコクで開催されたEMECS2003では、「青少年環境教育交流」が、英国ハル大学名誉教授ジャンポール・デュクロトワ博士が議長となり午前・午後にわたり行われた。最初に米国メリーランド州の教育者と大学生による事例発表が行われ、現在、環境教

育が直面している重要な問題が明らかにされた。この事例発表では私が司会を務めた。その後、日本とタイの教育者による2つの特別事例発表が続いた。日本側の参加者は川井浩史教授(神戸大学内海域環境教育研究センター)、川村貴子氏(兵庫県環境局)、タイ側の参加者はスピチャイ・タンチャイトロン博士(チュラロンコン大学)、ブンミー・オブチャイ氏(ワット・ドン・ワイ・スクール理科教諭)であった。それぞれのプログラムの取り組みについて説明があったほか、パネリスト全員が、学校教師が生々の環境データをより理解し利用できるよう、科学者がメンターの役割を果たすことが重要だということを強調した。ワット・ドン・ワイ・スクールの生徒はまた学校における環境教育の重要性とタティン川における水質監視活動について短い発表を行なった。



「姫路沿岸に生息するイボニシ貝の雌の雄化に関する研究」を発表する兵庫県立姫路工業大学附属高等学校の川野康英君(左)と横山利行君(右)

昼食を挟んで、2つの優秀な論文が日本の高校生によって発表された。兵庫県立姫路工業大学附属高等学校の川野康英君と横山利行君が発表した

「姫路沿岸に生息するイボニシ貝の雌の雄化に関する研究」と、兵庫県立明石西高等学校の清水朝子さん(左)と室垣奈津未さん(右)が発表した「ため池について 播磨地域の灌漑用地」である。



エメックスナイトでフォークソングを歌う兵庫県立明石西高等学校の清水朝子さん(左)と室垣奈津未さん(右)。「青少年環境教育交流」では、ため池について発表した。

翌日は「青少年環境教育交流」スタディツアーが行われた。合計21名の参加者はまずUNESCOアジア太平洋地域事務局(ROAP)を訪れ、

タイにおけるコミュニティーベースのプログラムに関する発表を聞いた。グループはその後、ナクホン・パソム県のワット・ドン・ワイ・スクールとナクホン・パソム・スペシャルスタディング・スクールを訪問した。これらのツアーはタティン川流域と米国メリーランド州の協力により手配されたもので、メリーランド大学環境科学研究所のデイビッド・ネマジー氏とタイ・ナクホン・パ

ソム島の教師デンシリ・トンノバクン氏が引率した。

「青少年環境教育交流」で行われたこれらの初めての経験から学んだことは何か？ 第一に言えることは、環境は人類と自然界との関係について学ぶ世界共通の理由になるということ。日本の高校生による論文は、環境を題材に科学と文化の両方の遺産を教えることができることを明確に証明した。しかし同時に、参加者が意見の一致を見たのは、若者たちが自然に触れる機会がますます減ってきているという点である。メリーランド州中学校教師のパトリシア・チェンバース氏が事例発表で述べたように、「歩道から離れて小川に入っていくこと」が難しくなっている。だ



数分前にタティン川で採集したばかりの水のサンプルの分析方法を説明するワット・ドン・ワイ・スクールの中学生による「川の探偵団」

からこそ、ワット・ドン・ワイ・スクールの「川の探偵団」プログラムで、7年生から9年生の生徒が水のサンプルを採集し、高度な化学分析、生物学的分析を行なってpH、栄養分、溶解酸素量等を調べ、さらにその結果について正確かつ詳細な解釈まで行なったことは素晴らしい試みであった。この生徒たちが作った自信に満ちた絵や図もまた、きれいな沿岸域環境が、彼らを感じる住みやすい場所にどれほど重要な役割を果たしているかを示していた。



ナクホン・パソン・スペシャルスタディング・スクールの環境教育の教室から見た実習農園。生徒はここで有機農法その他の環境における持続可能な農法を学ぶ。

このメッセージはナクホン・パソン・スペシャルスタディング・スクールでも繰り返された。ここではあらゆる年齢の子供たちが、作物を育て、水産養殖を行い、家畜を育てるということを実際に学校の中で体験できる環境が与えられていた。「青少年環境教育交流」は、最良の環境教育は、地元の共同体が

動植物の生息地への侵入者ではなく参加者であるような場所で、実際に手を使って生の体験を生徒や先生にしてもらうことであるという明確なメッセージを展開した。

環境教育は、若い人を地域社会の伝統に再び結びつけるための重要な方法であり、日本の高校生の室垣奈津未さんはそれを次のように述べた。

「私たちはタティン川を訪れた。そこでは川の上に家が建っていた。とても美しく静かだった。そこに住む人々は川に依存していた。川は植物や多くの伝統を生み出していた。人々は多くの方法で水を守る方法を学んできたことをタイの生徒から教わった。人々の心は温かく、目は輝いていた。別れ際、目に涙をためて見送ってくれた。私はとても感動した。」

環境教育を通して、若者たちをもう一度自然、伝統そして世界の共同体と結びつけることができる。

第1回目の「青少年環境教育交流」の成果は非常に重要であるため、EMECS 2003「バンコク宣言」に組み込まれた。この先



ワット・ドン・ワイ・スクール9年生の生徒がタティン川と彼女の学校がある共同体を背景に自分の作品を見せながらきれいな環境と生活の質の関係を伝えている。

取的取り組みは、フランスで開催される次回エメックス会議に引き継がれる。それまでの間、環境教育を通じてより多くの学校と児童・生徒を結びつけるという目的の実現のためにみんなの力をあわせよう。世界中の沿岸域研究から集められた生の環境データを使ってそれぞれの学校カリキュラムをより豊かなものにしよう。そして水と流域、森、野原、自然の遺産や育った生態系場所への探求心を若者と教師に伝えていく決意を再度確認しようではないか。

事務局からのお知らせ

ご賛同いただけるみなさまのご協力、ご参加を心よりお待ちしております。また、みなさまのお近くの方にも是非、本会をご紹介ください。

《年会費》	団体会員	100,000円
	NGO団体	30,000円
	個人会員	10,000円

《特典》

- 1 当センターが主催または共催するシンポジウムセミナー等に優先的に参加することができる。
- 2 当センターが有する最新の情報の提供を受けることができる。
- 3 当センターが実施する調査研究プロジェクトの形成などに参加できる。

入会を希望される方は、財団法人国際エメックスセンター事務局までお問い合わせください。

投稿募集

閉鎖性海域に関する研究や活動、会議、図書等の情報提供をお待ちしております。(謝金・原稿料はありません。)

編集・発行及び連絡先

651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-1 国際健康開発センタービル3階
TEL:078-252-0234 FAX:078-252-0404
HP: <http://www.emecs.or.jp> E-mail: secret@emecs.or.jp